

◇ 夏の湿気対策 ◇

今年は、梅雨明けが発表される前から各地で真夏日が観測され、早い時期から蒸すような暑さが続いております。相次いで梅雨明けが発表されますが今年の夏は、例年以上に高温多湿な気候になると予想されます。

空気が乾燥している時より湿度が高いときは、カラダの水分が蒸発し難くなるため体感温度が上がってしまいます。快適に生活するためには、温度管理だけではなく湿気も合わせて管理する必要があります。

家の中の湿度をコントロールする際は、除湿機やエアコンの除湿運転などで室内の空気を快適な湿度に保つ方法があります。

それには、湿気の含んだ外気を入れず、家の中の空気を外に出さない「高気密層」を備えている事が前提となります。

◇ 高気密・高断熱住宅と換気システム ◇

「高気密・高断熱住宅」は、高い断熱性と気密性を持った家のことですが、明確な定義はなく、国の定める「省エネルギー基準」をクリアした住宅が、一般的に高気密・高断熱住宅と呼ばれています。

省エネルギー基準では、日本の地域を気候などによって8区分に分け、住宅の断熱性能や設備などからそれぞれのエネルギーの元となる「一次エネルギー」を算出し、区分ごとに定められた消費エネルギー基準を満たす住宅に対し、税制面や住宅ローン金利などで優遇することで、エネルギーロスの少ない住宅建築の促進をはかっているのです。

さらに、2015年7月には「2020年までに新築の建物の省エネルギー基準適合を義務化する」ことが公布されました。

つまり法律上で2020年以降に建てられる新築住宅は、高気密・高断熱住宅になるということになります。

一方で新築の高気密・高断熱住宅が増えていくことで、新たに社会問題化してしまったものがシックハウス症候群です。

シックハウス症候群とは住宅に由来する健康障害の総称で、高気密住宅では気密性が高いため、カビや微生物などで汚染された空気、建材や家具に含まれている化学物質、ハウスダスト等が室内に留まりやすく、それらが原因でめまいや頭痛・吐き気などの体調不良を訴える人が続出したのです。

そこで現在は、改正建築基準法により、トイレやキッチンといった局所的な

換気だけではなく、家全体の空気を24時間、換気可能な設備を設置することが義務付けられました。

「ファースの家」は、高い断熱・気密性能をもった「エアクララ」の吹付施工によって断熱・気密を確保し、天井裏に設置されている「AIキット」を使用した「ファースの家」専用の空気循環システムで、住宅内の天井裏から床下、壁内の空気を循環させる構造になっております。

健康空気循環システム「AIキット」は、屋外の新鮮な空気をエレメントボックス（素子）と熱交換式換気扇を通し、調湿・調温された内部の空気に近づけてから取り入れます。さらにミキシングホッパーでエアコンから出る空気と混ぜ、天井裏からサイクルファンで床下に送り込みます。

こうすることによって、床下と天井裏に気圧差が生じ、床下から壁内、各部屋に設置されているレジスターを通り、空気が室内を循環します。

この空気とともに、室内の熱と水分が循環して家全体を快適な湿度・温度に保ちます。また、床下に敷き詰められた空気清浄調湿剤「ファースシリカ」の働きにより、適度な湿気をもった綺麗な空気が循環されますので、夏はジメジメせず、冬は過乾燥しない快適な環境となります。

空気を循環させることによって温度や湿度を調整する効率の良いこの仕組みは、少ないパワーで最大限の効果をもたらします。

（著 研究開発室 田中 海優）

幸太の知恵袋

蚊に刺されない方法

最近暑い日が続いて、蚊が出てくるようになりました。蚊に刺されやすい人と刺されにくい人がいると思いますが、刺されやすい人は虫よけスプレーを付けたりしてみても必ずどこか刺されてしまうという話をよく聞きます。そういう人は一度、足首から下をアルコール等で消毒してみてください。

蚊に刺されやすい人は足の裏にいる「常在菌」の種類が多く、それに蚊が反応する為刺されやすいのです。このことを発見したのはなんと16歳の高校生。自分の妹が蚊に刺されやすいことを気にして独自に研究を進めた結果この事が判明したそうです。その後、実際に妹の足を消毒してみると蚊に刺される箇所が3分の1程に減少したという結果も出ております。皆さんもぜひ試してみてください。

建築情報や知識は、ファース本部公式サイトで！



ファースの家

検索

